

学習内容報告書 フォーマット

学校名	市川市立八幡小学校
授業者	白石正義

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

生きものいっぱい八幡小

1-2. 学年

全学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

特別活動（学級会活動）

1-4. 単元の概要

本単元は、学校生活の中で日常的な生きものと触れ合いを通して、子どもたちの主体的な学びの姿や豊かな心を育むことをねらいとした特別活動の一環として行ったものである。そして、その一年間の取組を全校でまとめ、学習発表会を開催した。学習発表会は、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、動画による発表およびリーフレットの作成によって行われた。動画は、各学級で「八幡小じまんの生きものたち」を題材に話し合い活動を行い、その内容について学級の代表がカメラの前で発表する様子をまとめたものを作成した。また、リーフレットは、八幡小じまんの生きものたちの写真や子どもたちの学びの成果を載せ、全校の各家庭に配付し、子どもたちが保護者に紹介したり、説明したりできるような内容のものを作成した。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校は、「進んで学ぶ子どもの育成」を研究主題とし、生活科と総合的な学習の時間を中心としたさまざまな取組を行っている。生活科および総合的な学習の時間では、自分たちにとって身近な題材から学習テーマを設定し、主体的に学ぶ姿が求められる。学びに対する意欲を高めるため、学校では、この2年間、様々な生きものの飼育に取り組み始め、子どもたちにとって様々な生きものと触れ合う学校生活が日常的なものとなってきた。生きものたちの生活や成長の様子は、朝会（本年度はZOOM オンライン）や学校ホームページの動画で紹介したり、エサやりや水槽の掃除などの世話を子どもたちと一緒に取り組んだり、時には、新しく仲間入りした生きものの“名付け親コンテスト”を開催したりするなど、身近な生きものと実際に触れ合う中で育まれる子どもたちの豊かな学びの姿を大切にしてきた。その取組をまとめ、継続的に学校全体で生きものの飼育に取り組むことができるよう、また、生きものとの触れ合いから得られる豊かな学びを持続していくことができるよう本単元を設定した。

さらに、動画には、一年間、特に積極的に生きもののお世話に取り組んだ児童の様子や、総合的な学習の時間に海洋プラスチックごみ問題について調べた4年生の児童の発表も取り入れ、多様な生きものの飼育から、子どもたちの視線をその生きものたちが暮らす海へと向け、豊かな海と未来をつくろうとする態度を育む。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・自ら課題を設定する力
- ・豊かな体験活動を通して情報を収集する力
- ・試行錯誤しながら学ぶ力
- ・学ぶことのよさに気づき新たな学びにつなげようとする態度

1-7. 単元の展開

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
<p><八幡小の生きものたち></p> <p>☆海洋生物 ミシシippアカミミガメ、ウシガエル、ナマズ、ウーパールーパー、金魚、コイ、ヨシノボリ、メダカ</p> <p>☆そのほかの生物 ヘラクレスオオカブト、コオロギ、そのほか多数</p> <p>【特別活動】（常時活動）</p> <p>6月 「八幡小の生きものを知ろう」（動画視聴）</p> <p>6～3月 生きもの観察、飼育、触れ合い</p> <p>3月 学習発表会（動画視聴、リーフレットの配付）</p> <p>【各教科との関連】</p> <p>1年 生活科（それぞれの季節の生きものの学習）</p> <p>2年 生活科（生きもの調査隊）</p> <p>3年 総合的な学習の時間「地域に伝わる年中行事」、校外学習「船から見た東京湾」</p> <p>4年 総合的な学習の時間「ストップ！そのごみもったいない！～レジ袋有料化から考える～」</p> <p>5年 総合的な学習の時間「レッツ エクササイズ！！」</p> <p>6年 総合的な学習の時間「折り紙の可能性を追求しよう」</p> <p>全学年 道徳</p> <p>【主な環境整備】</p> <p>8月 校門前の池の整備（池の清掃、ポンプの設置、柵の設置、カメの放流）</p> <p>9月 職員室前のミニ池の整備（金魚の放流）</p> <p>3月 学習発表会のための ICT 環境の整備</p>		

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

2-2. 本時の目標

一年間、生きものとの触れ合いから学んだことを、まとめ、さらにこれからも八幡小の生きものたちを大切に育てていこうとする態度を育む。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
学習発表会「やわた小のいきものたち」(動画) <内容> 1. オープニング 「あ、メダカの赤ちゃんがたくさん！」 2. カエルとカメの成長 3. 生きものたちから学んだこと 4. みんな大好き！「ハピネスちゃん」 5. 海洋プラスチックごみ問題って知ってる？ 6. エンディング	○八幡小の朝の校門前の様子。たくさん子どもたちが池の周りに集まり、カメやカエル、メダカの観察をしている様子を紹介する。 ○カエルとカメの成長を、写真で振り返る。 ○子どもたちが触れ合いを通して見つけた生きものの生態や気づきを発表する。 ○生きものたちの中でも、大人気を博す「ウーパールーパー」を一年間、毎日欠かさずに世話をしてきた二人による発表。 ○総合的な学習の時間に学習した海洋プラスチックごみ問題について、発表する。 ○校長先生からのメッセージを流し、これからも生きものを大切にしようとする態度を育む。

7. 今回の活動の自己評価

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、子どもたちの学校生活に大きな影響を及ぼし、学習活動も見通しをもつことのできない状況が続いた。しかし、本校では、生きものの飼育という日常の学校生活を大切にし、日々、教職員と子どもたちが一緒になって活動を行うことを心掛け、子どもたちの学校生活を少しでも豊かなものにしようと努力を重ねてきた。

都市部にある本校の子どもたちが、日常的に生きもの、特に海洋生物に触れる機会は極めて少ない。はじめは生きもののかかわり方がわからなかったり、興味を示さなかったりした子どもたちも、徐々に生きものに関心を示し、池をのぞいてメダカやおたまじゃくしの成長を見守ることが習慣化したり、昆虫やカエルを捕まえて教室で飼育したりする姿が当たり前の光景となったことは大きな成果であると考えている。

さらに、年度末にあたり、この海洋教育パイオニアプログラムの一環として、取組をまとめ、子どもたちと保護者、そして地域に成果を報告できたことはとてもよい機会であった。今後、本年度の取組をスタートとして、さらに子どもたちと一緒に生きものを大切にし、その先にある海への興味関心を広げられるよう、努力していきたい。

8. 今後の課題

- ・海洋教育について、総合的な学習の時間に、戦略的に海洋教育についての単元を計画したり、各教科との友好的な関連を図ったカリキュラムマネジメントを行うようにしたりすること。
- ・生きものの飼育に関する子どもたちの主体的な活動を増やすこと。
- ・コロナ禍における豊かな体験学習の方法を試行錯誤すること。

9. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・生きものの飼育は、可能な範囲で行うこと。
- ・動画作成や公開にあたっては、保護者の承諾や個人情報の取り扱いについて慎重に行うこと。